

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

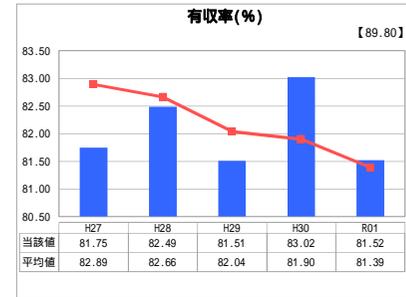
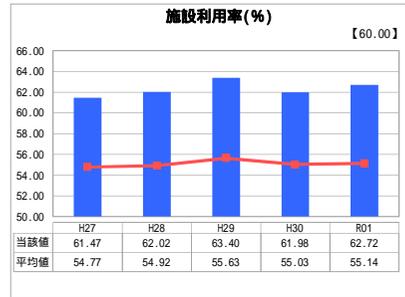
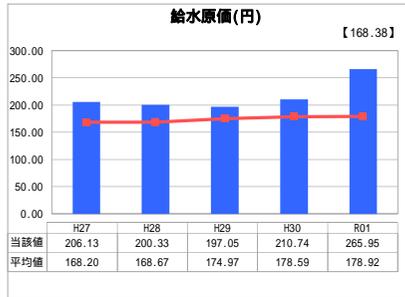
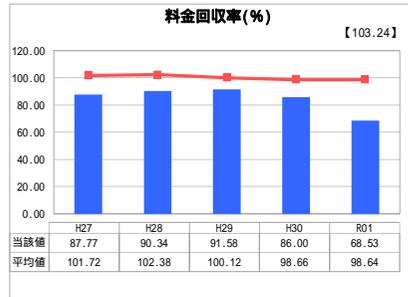
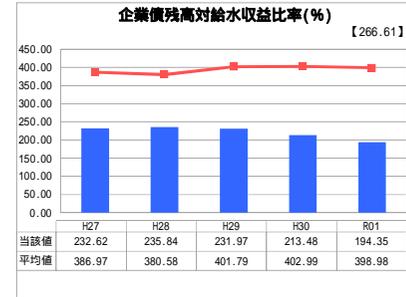
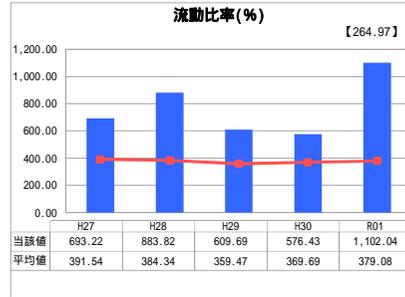
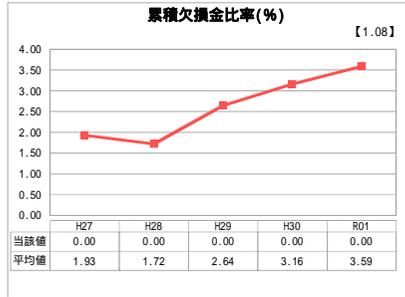
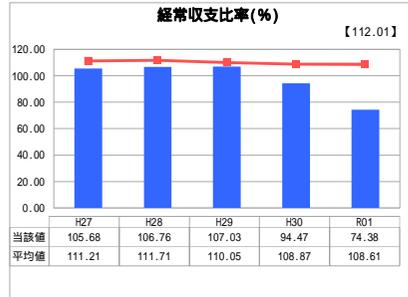
佐賀県 嬉野市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	84.62	94.49	3,820	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,945	126.41	205.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
24,384	89.69	271.87

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、平成30年度で100%を下回っているが、令和2年度に行う水道事業の経営統合に伴う費用の増加があったためである。令和元年度も同様に費用が大きく増加しているため、100%を下回った。

流動比率は、100%を大きく超えている状態を保っている。

企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均と比べ低い数値で推移しており、令和元年度も新規の企業債を発行していないので、更に減少している。

料金回収率は、平成29年度までは増加傾向にあったが、平成30年度以降は統合のための費用の増加があったため減少している。

給水原価も、平成30年度以降は統合のための費用の増加があったため増加している。

有収率は、漏水工事を原因とした濁水発生による廃水が多かったため、令和元年度は減少した。

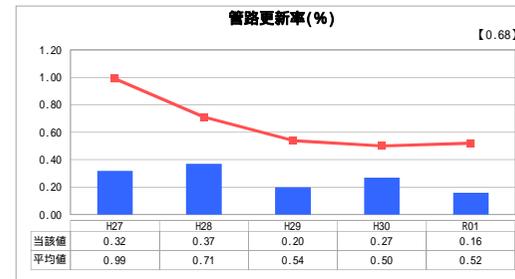
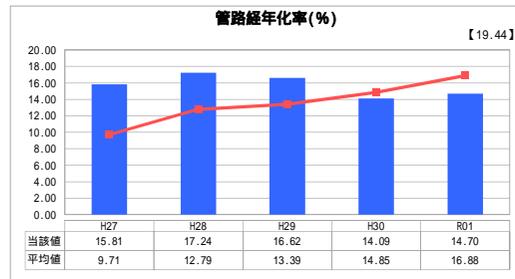
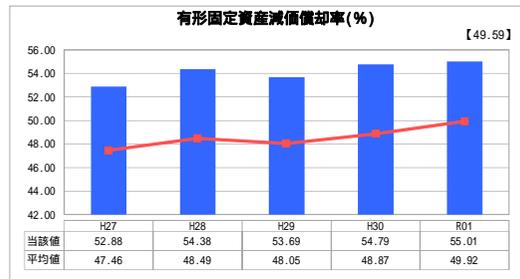
### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較すると高い。統合後は国庫補助等を財源に更新工事を行い改善に努めたい。

管路経年率は、類似団体と比較すると高かったが、平成30年度に改善し類似団体平均を下回った。

管路更新率は、類似団体と比較すると著しく低く、配水管等の更新が進んでいない。法定耐用年数を経過した配水管等については、漏水の頻発している箇所から優先的に更新している状況である。統合後は国庫補助等を財源に更新工事を行い改善に努めたい。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

令和2年からの佐賀西部広域水道企業団への統合を控え資産除却費等で費用が大幅に増加したため、令和元年度は費用面が影響する数値が悪化している。令和2年度からは、統合後の佐賀西部広域水道企業団において安定的で効率的な経営と、財源を活用した計画的な投資が行われていく。